

専念寺通信

専念寺通信

五月号 (NO. 105)

<http://sennenji.s296.xrea.com/>

新緑の季節がやって来ました。メキシコで発生した新型インフルエンザが世界にひろがっています。日本でも感染者が増えていますが今回は「弱毒性」とのこと。正確な情報のもとに落ち着いて行動したいものです。

☆施餓鬼会法要

今年も5月の最後の日曜に「施餓鬼会法要」をとりおこないます。施餓鬼会は飢餓に苦しむ餓鬼に飲食（おんじき）を施す法会（ほうえ）です。その由来をお話いたします。釈迦の弟子、阿難が夕暮れに瞑想していると、口から炎を出す**焰口餓鬼**（えんくがき）が現われ、阿難の命があと3日であると告げます。驚き苦悩した阿難は釈迦のもとへ行き、教えを乞い、その教えに従い、餓鬼道に墜ちている焰口餓鬼のための法要を営みました。結果、飢えに苦しむすべての餓鬼は救われ、阿難もまた福得寿命を得ることができました。現代では施餓鬼会法要は、餓鬼道に墜ちている人を救うために飲食を施すだけではなく、供養を通し、いま困難な状況にあるこの世のすべての存在に思いを致し、あわせて私たち自身が救われることを願うという意味をもって行なわれます。

☆法要の様子

施餓鬼会ではまず、住職（導師）が本尊に向かい読経をします。次に転座して餓鬼棚に向かい「表白（ひょうびやく）」を読みあげます。表白は、阿難尊者の故事による施餓鬼会の由来と、おこなわれつつある大法要の意味を語るものです。当山の開山上人、歴代上人、すべての檀家

信徒各家先祖代々の追善菩提、過去帖所載の諸精霊、昨年からの新亡諸霊、そして、三界万霊有縁無縁の諸精霊の冥福を祈るために法要をおこなうことが告げられます。表白がおわると導師は「**敬礼六位**（きょうらいろくい）」を唱えながら**散華**（さんげ）を撒きます。「敬礼六位」とは十方の仏、法、僧、釈迦牟尼仏、観音菩薩、阿難尊者の六位の名号をとねえ敬礼するお経のことです。次にしきみの枝に浄水をつけ**三界万霊の位牌**に、そして**各家の塔婆**に水むけをします。施餓鬼会のためにお書きした追善菩提の施主の皆様の名前を50音順にすべて読みあげます。こうして、施餓鬼会という大法要は、ご先祖の供養をしつつ、同時に施しの大切さ、慈悲の心の大切さをともに確かめあい、この世に生を受けたすべてのものの救いを祈願し、また、自分の心にある悪しきものを取り除くことを祈願する時間なのです。

☆最も幸福なことは

この世に生きて、私たちは何をもって「幸福」と思い、何を「不幸」と感ずるでしょうか。次の言葉はふだん私たちの考えていない点について、はっとさせます。「この世にありて最も幸福なることは善をなして栄えざることなり。」無教会主義のキリスト教者、内村鑑三（1861-1930）の言葉です。良いことをして、しかも栄耀栄華を得ないまま静かにしている、これが一番の幸福だと。次が「善をなして栄える」こと、第三が「悪をなして栄え」ないこと、そしてもっとも不幸な人とは「悪をなして栄える」人だと。そう思ってみると、この世にはなんと「不幸な」人の多いことでしょう。私たちは、宗教の違いを越えて、真実の声にいつも耳を傾けつづけたいものです。

平成21年5月
1日 大黒

